

日本リ・ソイル工業協同組合

国交省直轄工事の 事後評価を経て

ユニ・ソイルが



熊木繁雄理事長

環境省認可団体である日本リ・ソイル工業協同組合(宮城県仙台市、熊木繁雄理事長、☎0120・717・046)は6月4日、仙台市内のホテルで2



「E-E東北」では多くの来場者に「ユニ・ソイル」を紹介

015年度第10期通常総会を開催し、当日行

われたセミナーで、同組合が普及を進める建設汚泥等造粒固化再生処理士である「ユニ・ソイル」が、NETISのV技術に

登録されたことを明らかにした。熊木理事長はあいさつで「今年度は設立して10年になる。10年を迎えられたのは会員皆さまのおかげ。現在環境に対する意識が高まり、規制が厳しくなっている。これは適切にリサイクルする技術を持つている企業が評価されるということ。今後は東北の復旧工事や首都圏のオリンピック・再開発の工事が増えていく方向にあり、会員皆で乗り越えていきたい」と述べた。ユニ・ソイルは08年

NETIS、V技術に認定

にNETISのA技術として登録されたが、使用された国土交通省の6件の直轄工事についての事後評価で、従

来技術よりも有用であると評価、V技術として認定された。NETISでは新技術の活用を提案し工事で活用すると、工事成績評定の加点の対象となり、V技術はA技術よりも加点メリットが大き

く、V技術製品の使用は大きなメリットとなる。セミナーではアイシン(新潟県上越市)の岩渕武史部長から「V技術として認定されたことは非常に喜ばしい。その後、首都圏などを中心に建設汚泥のリサイクルと今後の動向などについて有識者が基調講演を行った他、来賓として宮城県中小企業団体中央会の高橋伸推進部長が祝辞を述べた。他にも、同時期開催中の建設技術系展示会「E-E東北」の見学会を行い、出展しているアイシンはブースにて東北でのユニ・ソイルの普及などについて説明した。